**『アクラ信仰告白』について**

『アクラ信仰告白―経済上、地球上の正義のために契約する―』（注1）は、2004年にガーナのアクラ市において開催された第24回世界改革教会連盟(ＷＡＲＣ、現在の改革教会世界共同体ＷＣＲＣの前身団体)総会において採択された告白文書です。（注2）

この告白文書は、今日の経済と地球環境の分野における不正義はイエス･キリストの福音信仰の核心的事柄であり、改革教会はそれに応答することが求められているという神学的確信によって作られたものです。こうして、『アクラ信仰告白』は世界の改革教会に教会の証言と宣教の中心的事柄としてこの不正義の問題と取り組むように呼びかけています。

**なぜ、今、『アクラ信仰告白』なのか**

『アクラ信仰告白』の学びは、次のことをわたしたちに教えてくれます。

１　正義は信仰の事柄である。

『アクラ信仰告白』は、経済上、地球上の正義は単に社会的、政治的、道徳的問題ではなく、むしろイエス･キリストの信仰にとって欠かせない問題であり、教会が教会であるためにとても大事な問題であることを教えています。そして、神の契約に忠実であるために、個々のキリスト者や教会は、今日の経済上、地球環境上の不正義に反対して立ちあがることを要求しています。

２　教会の一致が決定的である。

主の教会の一致はとても大事ですが、しかし教会が直面する事柄の理解や対処を巡って人々は一致できず分裂するかもしれません。『アクラ信仰告白』が取り扱っているグローバリゼーションの複合的な現実に関する認識と対処もまた人々を完全に一致させないかもしれません。しかし、『アクラ信仰告白』は世界の改革教会に対して、今日の世界経済の問題に満ちた本質について語ります。それを共に聴き、共に学ぶことを通して、教会が一致してこの問題と取り組むことは大切なことだと思われます。

３　「アダムよ、あなたはどこにいるのか」（創世記3章9節）―教会はどこに立つのか

正義の問題に関して教会が一致して取り組むために、教会はどこに立っているのかが問われます。教会は苦しめられ、苦闘している人々と連帯して立ちます。旧約の預言者や福音書のイエスの正義の伝統に従いながら、『アクラ信仰告白』は今日の世界(不)秩序を「力のない者たちや苦しむ民の目を通して」見ています。そして、教会や社会に対して、神の被造物そのものの苦悩であり傷つけられた存在であり、酷く破滅させられ、無価値とされている人々の叫びを聴くようにと呼びかけています。

注

1　菊池純子氏のドイツ語等からの翻訳がすでになされていますが、今回はＷＣＲＣのＨＰ上に公開されている英文『アクラ信仰告白』をテキストとしています。

2　この告白文書の成立経過に関しては、2004年第54回大会時に配布された当時のＷＡＲＣ常任委員菊地純子氏等による「世界改革教会連盟第24回総会代議員報告」によって詳しく知ることができます。また、『アクラ信仰告白』成立過程における日本キリスト教会の関わりやその姿勢については、当時の日本キリスト教会渉外委員会と日本キリスト教会ＷＡＲＣ代議員の連名による「2004年2月のロンドン・コルニー文書を受けて、日本キリスト教会の立場表明」(2004年第54回大会時の配布資料)に見ることが出来ます。2005年第55回大会で配布された信仰と制度に関する委員会の「アクラ信仰告白の批判的検討」も参照。

**『アクラ信仰告白』**

**―経済上、地球上の正義のために契約する―**

**序**

１　1995年にキトゥウェに集まった南アフリカ地区の加盟教会の緊急の呼びかけに答えて、増大する地球規模の経済的不正義と生態学的破壊の緊急性を考慮して、第23回総会(1997年、ハンガリー共和国デブレッツェンで開催)は世界改革教会連盟(The World Alliance of Reformed Churches、以下、WARCと称す)の全加盟教会に対し、「認識、教育、そして告白(信仰告白の過程processus confessionis)」へと招いた。加盟教会は、世界中の兄弟姉妹の叫びを聞き、神の創造の賜物が危機に瀕しているのを目撃して、「・・・悪による束縛を断ち、くびきの結び目をほどいて虐げられた人を解放し、くびきをことごとく折ること」というイザヤ書58章6節のみことばを深く省察した。

２　以来、九つの加盟教会がこの信仰告白を自らの信仰として言い表した。いくつかの教会もその過程にある。他の教会は、事柄を学習して危機の深刻さを認識するに至った。更に、世界改革教会連盟は世界教会協議会(The World Council of Churches)、ルーテル世界連盟(The Lutheran World Federation)や各地の超教派団体と協働して、ソウルおよびバンコック(1999年)からストーニーポイント(2004年)に至る世界のすべての地域で協議の時をもった。それ以外にも、ブエノスアイレス(2003年)では南の諸教会が、またロンドン・コルニー(2004年)では南北両教会が、協議会を開いた。

３　世界改革教会連盟の総会のために、ガーナ共和国アクラに集められたわれわれは、エルミナとケープコーストの地下牢獄を訪問した。そこは、何百万人というアフリカ人が商品として売られ、抑圧と死の恐怖にさらされた場所であった。「二度と許してはならない」という叫びは、今も現実に行われている人身売買と地球規模の経済制度の抑圧によって空しく響いている。

４　今日、われわれは信仰の責務を果たすべきときに至った。

**時のしるしを読む**

５　われわれは、被造世界が呻き続け、鎖につながれ、その救いを待ち望んでいることを聞いている(ローマ8：22)。人々の苦しみの叫びと被造物そのものの傷が、われわれに異議を唱えている。われわれは、人々の苦しみとその他の被造世界対する損害との結び付きをはっきりと見ている。

６　さまざまな時のしるしが激しく警告を発し、その意味を問うことを要求している。命を大きな危険にさらしている根源的な原因は、何よりも政治的軍事的力によって保護され、守護されている不正な経済制度から出てくるあらゆる所産である。経済制度は生死にかかわる事柄である。

７　われわれは、すべての人に命をという神の呼びかけを否定している破廉恥な世界に生きている。世界の1パーセントを占める最も豊かな人々の年収は、57パーセントを占める最も貧しい人々のそれと同額であり、毎日２万４千人が貧困と栄養失調によって死んでいる。貧しい国々の債務は、彼らが元金を数倍する借金を返済しているにもかかわらず、増加の一途をたどっている。資源をめぐる戦争は何百万人もの命を奪う一方、何百万人という人々が予防可能な病気で死んでいる。HIV/AIDSの地球規模の流行は、世界の大部分で命を悩ませ、安価な薬が手に入らない地域の最も貧しい人々に影響を与えている。貧困層の大部分は女性と子供であり、一日あたり1ドルの生活費もない最貧困層の人数は増加し続けている。

８　先進諸国の無制限な成長政策や多国籍企業の利潤追求は地球を荒廃させ、環境を大きく悪化させた。1989年には、毎日1種類の生物が絶滅していたのが、2000年までには毎時間に1種類となった。気候変動、水産物の枯渇、森林破壊、土壌侵食、そして飲料水の危機は壊滅的な結果の一例に他ならない。共同社会は分裂し、生計が失われ、沿岸地域や太平洋諸島は浸水の危機に瀕し、暴風雨が頻発している。高レベルの放射能が健康と環境を脅かしている。生活形態や文化的知識は財政利益のための道具となっている。

９　この危機は、以下のような信念に基づいている新自由主義経済の世界化過程(グローバライゼーション)の進展と直接的に関連している。

* 無制限な自由競争、消費主義、そして経済発展と富の蓄積が全世界にとっては最良のことである
* 私有財産の所有は社会的責務を負わない
* 資本投機、市場の自由化と規制撤廃、公益企業と国家資源の民営化、外国資本の投機と輸入の無制限の参入、低い税金、そして無制限の資本異動がすべての人々に富をもたらす
* 社会的責務、貧者や弱者の保護、労働組合、そして人々の間の諸関係は、経済発展と資本蓄積の過程に従属している

10　これは他に代案がないと主張するイデオロギーであって、貧しい人々や被造物に際限のない犠牲を要求し、富と財産を産み出すことで世界を救うことができるという誤った約束をなし、人間生活のすべてを支配し完全な忠誠を要求するところの偶像崇拝に至らせる。

11　われわれは、状況の重大性と複合性を認識している。われわれは、単純な答えを求めない。真理と正義の探究者として、また無力で苦しめられている人々の目を通してこの状況を見る者として、われわれは現在の世界(無)秩序が帝国によって擁護された極めて複合的で非道徳的な経済制度に根を下ろしていると見ている。「帝国」という言葉によって、われわれは強大な国家が自国の利害を保護し防衛するために導入した支配制度を構築するところの、経済的、文化的、政治的、軍事的な力の集束を意味させている。

12　古典的自由経済では、国家は市場競争における私的財産と契約を保護するために存在する。労働運動の戦いを通して、諸国家は市場を規制し人々の福祉を提供し始めた。1980年以降、新自由主義は資本の国際化を通して国家の社会福祉機能の解体に乗り出した。新自由主義の下では、経済の目的は生産者と金融資本のために利益を増やして還元することにあり、大多数の人々はその利益から除外され、自然も商品化される。

13　市場が世界規模化していくにつれ、市場を保護する政治的、法的諸制度も世界規模化していった。アメリカ合衆国政府やその同盟諸国は、国際的な財政や貿易機関(国際通貨基金、世界銀行、世界貿易機関)とともに、政治的、経済的、あるいは軍事的同盟を利用して、資本家たちの利害を保護、促進している。

14　われわれは、新自由主義によって支えられている経済の世界規模化と国際的な政治関係の結びつきによる劇的な経済的危機に直面している。これは、力ある者たちの利害を防衛し保護するための世界規模の制度である。これは、わたしたちすべての者に影響を与え、わたしたちを奴隷化している。さらに言うと、聖書の言葉では貧しい人々を犠牲にして富を蓄積するそのような制度は、神への不信仰であり、避けることのできる人間の苦しみの原因として看做されており、マモンと呼ばれている。イエスはおっしゃっている、「われわれは神とマモン(富)に同時に仕えることはできない」、と。(ルカ16：13)

**経済の不正義と生態系破壊に直面しての信仰の告白**

15　信仰の義務を果たすことは、地域や神学の伝統に従って、さまざまな仕方で表現されうるであろう。つまり、信仰の告白として、共同の告白行為として、神の契約に忠実であることによって。われわれは、信仰の告白という表現を選んだが、それは古典的な教義上の信仰告白という意味ではない。なぜなら、世界改革教会連盟はそのような告白を作りえないからである。しかし我々の時代の挑戦とデブレッツェンの呼びかけに積極的な応答をする必要性と緊急性とを示すために、この表現を選んだのである。われわれは、加盟教会にわれわれとの共同の証しを受け止め、応答していくように招く。

16　改革教会の伝統から語ることと、時のしるしを読むことから、世界改革教会連盟の総会は以下のように断言する、すなわち地球規模の経済的正義は神を信じるわれわれの信仰の純粋性とキリスト者としての使徒性にとって本質的なものである、と。われわれは、もしわれわれが沈黙しつづけたり、あるいは今日の世界規模化した新自由主義経済制度に直面して行動することを拒絶するならば、われわれの信仰そのものの純粋性が危機に瀕していると信じる。それゆえ、われわれは神と互いの前で**信仰の告白**をなすのである。

17　**われわれは信じる**、すべての命の創造者にして保持者なる神を。神は、われわれをこの世の創造と救済におけるパートナーとして招いておられる。われわれは、イエス・キリストが来てくださったので、すべての者が命を豊かに受けることができるようになった、という約束の下に生きている(ヨハネ10：10)。聖霊の導きと支えによって、われわれは、われわれの世界の現実を自ら切り開いていく。

18　**われわれは信じる**、神がすべての被造物を統治されていることを。「地とそこに満ちるもの、世界とそこに住むものは、主のもの」(詩24：1)

19　**それゆえにわれわれは拒絶する**、地球規模の新自由主義的資本主義や他のいかなる経済制度によって押し付けられている今日の世界の経済的秩序をも。そこには完全な計画経済も含まれているが、それらの経済制度は貧しい人々、弱者、そして全被造物を命の豊かさから排除することで神の契約を無にしている。**われわれは拒絶する、**経済的、政治的、そして軍事的な帝国の要求をも。その帝国は、命を統治する神に反抗し、神の義の支配に逆らって行動している。

20　**われわれは信じる**、神は全被造物と契約を結ばれたことを(創世記9：8-12)。神は正義と平和のヴィジョンに基づいて、地上の共同体を樹立なさった。契約は恵みの贈り物であり、町の市場で売られているようなものではない(イザヤ55：1)。それは全被造物世帯にとって恵みの経済である。イエスは、これが包括的な契約であって、そのうちでは貧しいものや社会の隅に追いやられている者たちが優先的なパートナーであり、「彼らのうちのもっとも小さい者」(マタイ25：40)のために正義を命の共同体の中心に置くことへとわれわれを召されていると教えておられる。全被造物は祝福され、そしてこの契約のうちに含まれているのである(ホセア2：18)。

21　**それゆえにわれわれは拒絶する**、新自由主義的な地球規模の市場制度によってはびこる消費主義文化や貪欲で利己的な自由競争、あるいは、その他の代替案がないと主張するいかなる制度をも。

22　**われわれは信じる**、命を保持するために神の契約によって我々に与えられた命にかかわるどんな経済も、神に責務を負っている、と。**われわれは信じる、**経済は被造物を保持するという枠内において、共同体内の人々の尊厳と福祉に奉仕するために存在する、と。**われわれは信じる、**人類はマモン(富)ではなく神を選択するために招かれており、われわれの信仰を告白することは服従の行為である、と。

23　**それゆえにわれわれは拒絶する**、神の被造物の大部分を破壊し、何百万人の命をすでに奪っている規制なき富の蓄積と無限の成長をも。

24　**われわれは信じる**、神は正義の神である、と。腐敗と搾取と貪欲の世にあって、神は特別な仕方で、見捨てられた人、貧しい人、搾取されている人、不当な扱いを受けている人、虐待されている人の神である(詩編146：7-9)。神は、全被造物の関係に正義を要求しておられる。

25　**それゆえにわれわれは拒絶する**、人々よりも利益を優先させ、全被造物のために配慮をせず、すべての人のための神の贈り物を私物化するような、いかなるイデオロギー、あるいは経済体制をも。**われわれは拒絶する、**福音の名のもとにそのようなイデオロギーを支持したり、それに抗議しない人々を正当化するいかなる教えをも。

26　**われわれは信じる**、神は不正義による犠牲者の側に立つようにとわれわれに呼びかけておられる、と。われわれは、主が次のようにわれわれに要求しておられることを知っている。すなわち、われわれが正義を行い、慈しみを愛し、へりくだって神の道を歩むことである(ミカ6：8)。われわれは、正義が川のように流れ、義が大河のように流れるために(アモス5：24)、経済と環境破壊におけるいかなる形の不正義にも反対するよう召されている。

27　**それゆえにわれわれは拒絶する**、神はただ富める人とともにおられ、貧しさを貧しい人たち自身の自己責任だと主張するいかなる神学をも。**われわれは拒絶する、**性別、人種、階級、障害、カースト制度などによって、正しい諸関係を破壊するいかなる形の不正義をも。**われわれは拒絶する、**人間の利益が自然に優先すると主張しているいかなる神学をも。

28　**われわれは信じる**、神は、われわれを貧しい人の叫びや被造物の呻きを聞き、そしてすべての人々が命を得、しかも命を豊かに得るために（ヨハネ10：10）おいでになったイエス・キリストの公の宣教に従うように召されている、と。イエスは抑圧された人に正義をもたらし、餓えている人にパンを与えたもう。彼は、とらわれ人を解放し、目の見えない人に視力を回復したもう（ルカ4：18）。彼は、打ちひしがれている人、寄留者、孤児と寡婦を支え、守りたもう。

29　**それゆえわれわれは拒絶する**、宣教活動の中で、貧しい人々や被造物への配慮を欠き、すべての人の命のためにおいでになった「良き羊飼い」（ヨハネ10：11）に従うよりも、「盗み、殺し、破壊する」（ヨハネ10：10）ために来るものらに慰めを与えるような、いかなる教会の実践や教えをも。

30　**われわれは信じる**、神は、男、女、そして子供たちを互いに、富める人も貧しい人をも、いたるところから招き、キリストが呼びかけておられる和解が実現できるように、教会の一致とその宣教を保つように召されている、と。

31　**われわれは拒絶する**、教会生活の中で正義と一致とを分断するようないかなる試みをも。

32　**われわれは信じる**、聖霊によって、われわれは、イエス・キリストによってわれわれの内にある希望を証しするように召されているし、また、やがて正義が地に満ち、平和が地を覆うことを信じるようにも召されている、と。

33　**われわれは約束する**、われわれは、経済における公正のため、また、神の家である地球のためのグローバルな契約を求めていくことを。

34　**われわれは、**神の正義の裁きのもとにわれわれ自身も立っていることを知りつつ、この希望をへりくだって**告白する**。

　　・われわれは、今日の地球規模の新自由主義経済体制から、意識しようがしまいが、利益を得ている人々の共犯性と罪責を認める。われわれは、このことは諸教会とわれわれ自身の加盟教会の両者を含んでいることを認識しているゆえに、罪の告白を呼びかける。

　　・われわれは、今日の経済体制がもたらす消費主義文化と貪欲な競争と利己主義によって、捕らえられているのを認める。このことは、あまりにも深くわれわれの霊性にしみ込んでいる。

　　・われわれは、被造物を濫用し、自然の管理者であり同伴者である自らの役割を果たせないでいる罪を告白する。

　　・われわれは、改革教会の家族内の不一致が神の宣教に十分に奉仕する能力を損なってしまったというわれわれ自身の罪を告白する。

35　**われわれは信じる**、たとえ諸権威や人間の法がそれを禁じ、処罰と苦難が結果すると

しても、イエス・キリストへの服従において教会は告白し、証言し、行動することへ

と召されている、と。

36　**われわれは共に讃美する**、創造者、贖い主、聖霊なる神を。神は「権力ある者らをその王座から引き下ろし、身分の低い者を高くし、餓えている者を良いもので満たし、富める者を空腹のままに追いやられる」（ルカ1：52以下）。

**正義のために契約する**

37　われわれは、この信仰をともに告白することによって、相互の連帯と責任ある関係における信実の行為としての神の意志への服従を契約する。このことは、それぞれの地域や地方の環境同様、われわれに共通する地球規模の文脈において、経済と地球における正義のために共に働くようわれわれを義務づける。

38　この共通の旅の途上にあって、いくつかの加盟教会はすでにその約束遂行を信仰の告白の形で言い表した。われわれはそれらの教会には彼らの信仰の告白がその地域や地方で具体的な行動となるよう促す。信仰の告白過程にある他の加盟教会には、教育、告白、そして行動を通じて、さらなる取り組みを促す。その他のまだ認識過程にある加盟教会には、われわれは相互の契約責務に基づきその教育を深め、信仰告白にむけて進んでいくように促す。

39　総会は、加盟教会に対して、この契約関係に基づき、この信仰告白をそれぞれの所属教会に仲介し、説明するという、困難で預言者的な務めを遂行するように呼びかける。

40　総会は、加盟教会に対して、「公共的問題委員会」の経済の正義と生態学の諸問題に関する勧告に従って、この信仰告白を履行するよう促す。

41　総会は、世界改革教会連盟に対し、公正な経済と被造物保全のために、他の教会諸団体、超教派諸団体、他の宗教団体、市民運動と民衆運動と一緒に働くことを委託し、同様の働きをわれわれの加盟教会に呼びかける。

42　われわれは、情熱を込めて次のように宣言する、我々とその子孫とが命を得るために（申命記30：19）、われわれは、自らの時間と精力をもって、経済と地球を変革し、更新し、回復していく、と。

（解説・翻訳：冨永憲司）